

50年、リズムや歌に耳をこらせた集大成!! 聴き場でもかみあって歴史をつくり、楽しんでいきたい

生命の力を感しました。どの国に生まれて、どのような人にも大切にされるべきだと思います。

戦後80年の想いもひめながら、声もききあう3月旬でした。



高くかかげたの、パワーに胸をつかまれるような感覚で、改めて平和に向かう力をもって保育に向かいたいと思います。



初めて知りました。こういうのが全国、世界に広がって平和が広がればうれしいです。



生活から生まれた歌は、深くきこえてくる感じが、いつも感じます。

男性の歌声の音程の、長さに（王に）なりました。

保育の方々の歌声の強さ、思いを感じました。

一曲で平和を考えさせられました。



学んできた教材は200曲もこえています。

歌とリズムの会（保母学校）のはじまり

- 沼田 - 1969年～
- 前橋 - 1971年～
- 高山（桐生） - 1975年～
- 邑楽 - 1976年～
- 藤岡 - 1979年～

保育・子育てフォーラム

感じる、知る、つながる 豊かな保育・子育てを

菟輪 明子さん

現代は両親祖父母まで総就業している中で、特に母親の子育てへのプレッシャーが「多い時代」になっている。また、外国籍の子どもも増えている。こうした中で「保育園は社会のインフラとして欠かせない役割を担っている。だからこそ保護者、保育園、地域の人々が子どもを真ん中に、育ちあえる社会にしなければならぬ」。

保育士だけでなく、保護者など子どもをとりまく環境にいる方々の話を聞けるのは会合ならではだと「表を感しました」。

五十嵐 元子さん

互いのズレや違いがあるのは自然なこと。そのズレを違和感のままにしないで、お互いに「感じる」ことで豊かになる。保護者会を通じてつながりが出来てくる。そのズレや違いに寛容になって立ち止まってみると対話が生まれる。だからズレや違いがあっても共に子育ての仲間として歩いていく。

現代の悩みなどとても共感することができました。ズレや違いを受け止めながら保育を進めていくことの大切さを学びました。

中西 新太郎さん

今日の子どものあの歌声を消さないで「いくことが子どもが生きる平和な世界を築くことにつながる。今世界ではガザをはじめ多くの子どもの命が失われている。日本でも子どもは産まれないという若者が6割もいる。このままだと子どもの姿が社会の中で見えなくなる... 子どもとの関わりは様々で、違いやズレがあるから面白い。その多様な触れ合い、ホッとできる場や「保育園」。

田中 浩司さん

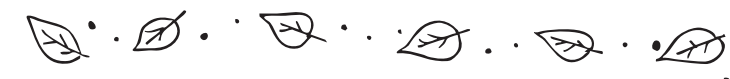
保育の中で保護者や保育士が様々な違い、ズレを感じ、悩むことが多いと思うが、その背景にはその人の人生がある。その中で培われてきた考え方や価値観の違いやズレであることが多い。それでも豊かな保育をつくるためには、様々な立場の人がいることを理解し、一人ひとりの考えが「違うからこそ他者との話し合いが必要だ」。

今の情勢も含めて「知る」ことが大事だと感じ、情報など「学ぼう、知ろう」と思いました。

ズレはあるけれど、その背景は何か、話し合うことで「次へすすめる」と思いました。そして「平和」ではなく「いっしょ」ですね。



今回は、速報「夏の横すば」第1号～第3号が西に布されます。HP「実行委員会のお知らせ」には、第4号まで掲載されます。HP版は、カラーです。是非ご覧下さい。



合研とわたし

白梅短大の歌声サクル「グルッパ」の第1回同窓会が、山ノ内町の第11回合研でした。おれから46年。今年は長野の仲間とアチ同窓会です。（群馬 60代 元保育士）



今は長野経営塾にいます。新人の頃、先輩に山ノ内につれていかれて、その熱量に圧倒されました。今、パワーアップしているように感じます。若い人もたくさんいていいですね。（長野 60代 元園長）



大先輩から うたうと元気になる 歌とリズムの会のはじまりを聞きました。

群馬の歌とリズムの学びは、約56年前に各地域で保母学校として始まりました。その前身として、島小、境小を中心とした教職員の学びがあり、そこに参加していた保母が「目の前の子どもたちと、うたいたいから、学びたい」という思いで立ち上げていきました。「一日保育をして疲れた体で保母学校へ行く。でも丸山亜季先生のピアノで動き、うたうと元気になるんだよ」「とにかく感動があった。その感動を子どもに伝えていったのだと思う」と話してくれました。コロナ禍で縮小せざるをえない時期もありました。それでも子どもたちは日々のくらしの中で歌をうたっていました。おふれ歌うたい会を持ち、伝えたい文化を再認識して学びをつなげていた私たち、エールをいただきました。「大変な世の中だけれど、そこに喜びがあれば続けられる。喜びを感じられるような活動・体験をしてください。」